

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22 年 4 月 6 日

【評価実施概要】

事業所番号	0172500266		
法人名	医療法人社団 滋恒会		
事業所名	グループホーム なかじま		
所在地	余市郡余市町大川町4丁目23番地 (電話) 0135-30-7200		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成22年3月30日	評価確定日	平成22年4月13日

【情報提供票より】 (22年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	13人, 非常勤 4人, 常勤換算 15.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての 1 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	光熱水費 15,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (3月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護 1	3 名	要介護 2	4 名		
要介護 3	5 名	要介護 4	4 名		
要介護 5	2 名				
年齢	平均 86 歳	最低	73 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中島内科、余市協会病院、荒木歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

海岸に近く、日当たりの良い暮らしやすい間取りのグループホームです。医療法人の運営で、利用者の健康面は法人医師の訪問診療で「安心して医療と介護が結びついた暮らし」が営まれています。運営者や管理者は積極的に認知症についての講演会で講師を務め、職員も介護劇の団員となって、認知症を理解していただく取り組みをしています。ホームでは「認知症でも安心して暮らせる老後を支えあう地域づくり」の理解を深めていただくよう積極的な取り組みをしています。利用者の暮らしぶりは、インターネットのホームページを活用して、誰でも見れるように情報を公開しています。家族や利用者にとって、安心して過ごせるホームとなっています。

【重点項目への取組状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では改善課題はありませんでした。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全ての職員が検討し完成させています。外部評価は、前回の評価では改善課題がありませんでしたが、今後は改善課題があった場合には、改善計画を記録として残すことが検討されています。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は2ヵ月ごとに開催され、毎回ホームからの報告や現状を議題としています。地域の理解と支援を得るための貴重な運営推進会議ですので、さらに率直な意見をいただき、双方向的な会議になるよう、柔軟に参加メンバーを検討し、活発な意見交換の場となるような取り組みが期待されます。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月発送する郵送物にホームでの暮らしがわかるように、「暮らしのお便り」と「利用者ごとの報告」をしています。インターネットのホームページでも情報を発信しています。利用者や家族の苦情や要望をホームの玄関へ張り出し、どのように解決したか、誰にでも内容がわかるようにしています。利用者や家族からの意見は運営に反映しています。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域で開催されなくなった納涼盆踊りをホームの行事として開催し、町内や近隣住民の方々の参加をいただき、毎年の恒例行事にしています。町内の行事には職員が同行し、利用者とともに積極的に参加しており、利用者の楽しみにもなっています。近くの商店や散歩に出かける際も気軽に声を掛けていただき、地域の一員としての日常生活が営まれています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	医療法人が運営しており、既に地域密着型サービスとして「医療と介護の連携」を基準として作られた、独自の理念をつくりあげています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は各ユニットの見やすい場所に掲示されており、毎月行なっている全体会議で理念や運営方針に基づいたケアが実践されているかを確認をする取り組みをしています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内で途絶えた納涼盆踊りを、ホーム主催の盆踊りとして開催し、車椅子の利用者も参加しながら、町内の多くの住民の方々が楽しみとしている毎年の恒例行事となっています。町内の行事には積極的に参加しており、地域との交流は利用者の楽しみになっています。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表を全職員に配布し、検討されたものを各ユニットの代表者が纏めあげて完成させています。職員は自己評価を記入することで日々のケアについて振り返り、見つめなおす機会になり、自己評価や外部評価は意義のあるものになっています。		

余市町 グループホーム なかじま

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月ごとに利用者の家族、町会役員、町職員、地域包括センター、職員のメンバー構成で開催されており、ホームの運営状況や行事の報告と予定などが議事録に記録されています。しかし、開設以来の同じメンバーで構成され、固定化している傾向にあります。	○	会議に出席する人員構成を柔軟に検討して、毎回同じ出席者ではなく幅広い分野で出席をいただき、多くの意見をいただく機会にすることが望まれます。今後の取り組みに期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の高齢者福祉課とは各種報告や相談をとおして連携を図っています。ホームで行なっている介護劇を通じて、多くの人に認知症の理解を深めていただく取り組みをしており、近隣の市町村からも見学にきています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族宛に「暮らしのお便り」と利用者ごとの暮らしぶりを毎月郵送し報告しています。利用者の体調に変化のあった時は電話で連絡し、状況の説明と相談をしています。インターネットのホームページから利用者の暮らしぶりが見られるように活用を図っています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの意見や苦情は記録に残し、ホーム玄関に掲示しています。いただいた意見や苦情は検討し、運営に反映できるように改善しています。ホームでは家族が訪問したときに気軽に話しやすい関係を築くよう心がけています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職は多くはありませんが、離職した職員がホームを訪問することもあり、ダメージの軽減をしています。職員採用の場合は2週間の期間で状況を見極め、職員がサポートしながら、利用者との馴染みの関係になれるように配慮をしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームとして外部研修への参加費用を負担し、職員は知識や技術を磨くために、経験や段階に応じた研修へ参加をしています。外部研修に出席後は内容を会議で発表し、職員間で共有しています。外部研修に参加しない月は、職員が持ち回りでテーマを決め内部研修を実施しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとは積極的に行事を通じた交流をしています。グループホーム協議会の勉強会にも全職員が参加しています。ほかの業者と交流をもつことで、ネットワーク作りを通じたサービスの質の向上に力を入れた取り組みをしています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	運営法人の病院に通院している利用者の場合は、既に馴染みの関係ができていますが、在宅から利用開始する場合は自宅訪問をしたり、家族と一緒に事前にホームに来ていただき雰囲気を感じとって、職員と顔馴染みの関係になっていただいています。混乱がなく安心して利用開始ができるような配慮をしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の暮らしで職員は調理方法や、昔からの知恵を聞いています。畑仕事や花の手入れも一緒に行ない、できない事をお手伝いし、わからないことは教えていただくように、相互で支えあう関係を築いています。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に寄り添い、利用者の望んでいることを日々の会話の中から汲み取るようにしています。希望の食材や献立、入浴回数や時間帯など、できる限り希望に沿うようにしています。意向の把握が困難な場合は、時間をかけて表情で汲み取るようにしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	運営法人の病院の通院者が利用開始する場合は、通院時のデータ等を基に利用者、家族と相談して意見を反映した介護計画を作成しています。それ以外の利用者であっても、今までの暮らしぶりなどを家族を含めた関係者と相談して、アセスメントを基に介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、おおむね3ヵ月に設定していますがモニタリングをしながら、利用者の体調の変化を考慮し、柔軟な見直しをしています。家族へも報告していますが、介護計画書は見直しのたびに確認のサインがなく、1年毎に利用者の家族に確認のサインをいただいているだけに留まっています。	○	体調の安定している利用者であっても月に1度はモニタリングで状態を確認し、介護計画作成担当者は介護計画の見直しの時期には、利用者の家族へ計画内容を説明し、承諾をいただいたことが証明できるようにサインをいただくことが望まれます。今後の取り組みを期待します。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関以外の病院受診や、理美容院への送迎、買物の同行、利用者の親族の墓参りや法事、葬式に列席する場合も、ホームとして要望に応じた対応をしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営法人が病院を運営しているため、利用者は毎週の訪問診療で安心して医療支援を受けています。協力医療機関以外の受診でも受診内容を共有し、適切な医療支援が行なわれています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営法人の医師との連携も24時間対応ができる環境であり、ホームでは終末期に対応できる体制になっています。指針についても作成されています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者のプライバシーや自尊心を損ねる事のないように配慮し、個人記録も保管を徹底しています。オムツやパッドの交換時間を表で確認し、さりげなくトイレに誘導しています。デリケートな言葉掛けは利用者の耳元で話しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の望むような起床時間や入床時間を、ホームの決まりで一方向的に決めることなく、利用者の生活歴や希望のペースで過ごせるように支援をしています。散歩や外出の希望もできる限り柔軟に対応をしています。		

余市町 グループホーム なかじま

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	彩りやバランスの良い献立を利用者の好みの食材を取り入れたもので、職員と会話をしながら、自分のペースでゆっくりと食事をしています。食材の下ごしらえや味見、調理の手伝いや配膳を、職員と利用者が一緒にしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できるだけ利用者の希望や習慣にそうように支援をしています。入浴を拒む利用者へは、言葉掛けのタイミングを検討して、職員が清潔保持が保てるように支援しています。利用者により温泉での入浴希望がある場合も対応をしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の張り合いのある暮らしが実現できるよう、手芸や書き物の趣味や、得意な分野で活躍できる場面をつくり支援しています。畑の農作物の成長や、ホーム内の観葉植物の手入れなど、楽しみや気晴らしの支援をしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の手芸用品や買物に、職員が同行しています。散歩や畑仕事など冬期間以外は、戸外へ出かけるようにしています。利用者がホームの中だけで過ごさないよう、利用者の希望を取り入れた計画を立て、外食を含めた外出の支援をしています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは鍵をかける必要がなく、夜勤者が1人になる時間だけは、防犯目的で玄関の施錠をしますが、それ以外は自由に出入りができるようになっています。無断で外出する傾向の利用者には、職員が目配りで確認し、外出の際は職員が同行しています。		

余市町 グループホーム なかじま

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣住民の方々の参加による災害訓練を終了したばかりで、何分で、全員が戸外へ避難できるかの確認ができたところです。今後は、どの分野で近隣住民の方々に災害の際の応援をお願いするか、内容を検討して、次回の災害訓練を検討しているところです。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事量、水分摂取量を記録し、職員間で共有しています。食事の内容はバランスの取れた内容になっています。食事制限の必要な利用者へも適切な支援がされています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は広いリビングに台所を挟んで居間があり、廊下にも一人になるスペースがあり、利用者は自由に自分の好みの居場所を確保することができます。廊下に昔馴染みのレトロな道具や、5つ玉のそろばんなどを置き、昔の生活が思い出させるような空間になっています。ホーム内は、不快感を感じられません。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、家族の写真や使い慣れた馴染みの生活用品を持ち込み、安心して過ごせる自分の部屋となっています。		

※ は、重点項目。